



ADRC Highlights Vol.62

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

January 1 & 16, 2003

謹賀新年



2003年あけましておめでとうございます。アジア防災センターは、1月15-17日に第5回の年次国際会議を開催することになりました。これもひとえに、1998年7月に神戸に設立されて以来の皆様の暖かい御支援の賜物と感謝しております。また、4月には新しい「人と防災未来センター第Ⅱ期」のビルに移転を予定しており、これによりさらに関係防災機関との連携が密になるもの期待しております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

所長 西川 智



➤ **ADRC メンバー国共同プロジェクト 2002**
 □ **バングラデッシュで災害早期警報システム改良に関するトレーニングを開催**



今年度のメンバー国との共同プロジェクトの一つとして、バングラデッシュ防災・救援局、バングラデッシュ行政トレーニングセンター、OCHA（国連人道問題調整事務所）神戸と共催で、2002年12月19日～24日の6日間にわたり、バングラ

デッシュダッカにおいて、約40名の国、地方政府防災関連職員等が出席して、災害早期警報システム改良について6日間のセミナーを開催しました。

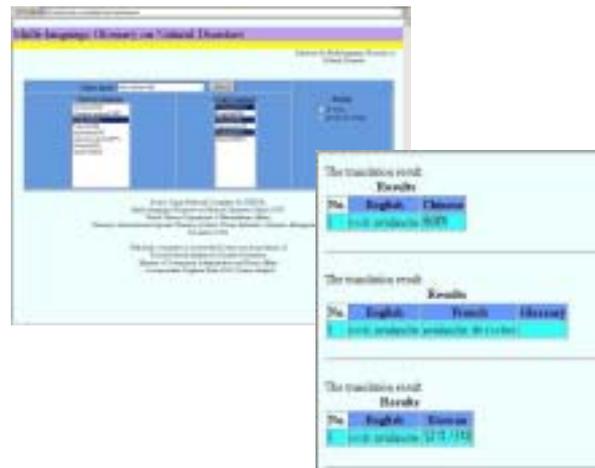
開会式には、バングラデッシュ防災担当大臣、事務次官、官房長官も出席し、大臣からは、セミナーの成果の実施について強い期待が述べられました。

日本側からもリソースパーソンとして、気象庁、OCHA神戸、兵庫県教育委員会、(株)パスコが出席し、地震、台風、洪水災害についての日本の教訓を紹介しました。セミナーの結果は、今後のバングラデッシュの防災力向上のための提言としてまとめられ、防災担当大臣に報告される予定です。

(主任研究員 吉村 文章)

➤ **ADRC 多国語防災用語集 韓国の協力で6か国語に**

ADRCでは、ADRCの推進するインフォメーション・シェアリングの一環としてホームページ上でオンライン多国語防災用語集を提供してきました。この用語集は、インターネットを使用できる環境にあれば、いつでも、どこでも自然災害に関する英語、フランス語、スペイン語、日本語の4ヶ国語を参照することができるものです。



2003年1月より、この4ヶ国語に加え、韓国語、中国語も参照できるようになりました。韓国語の監修には、韓国行政自治部(MOGAHA)の国立防災研究所(NIDP)の多大な協力がありました。

ADRC 多国語防災用語集は下記アドレスからご利用可能です。<http://html.adrc.or.jp/dbs/trans2.asp>

➤ **第35回WMO/ESCAP 台風委員会チェンマイで開催**

11月18-25日チェンマイでWMO/ESCAP台風委員会の第35回総会がタイ気象局がホストとなり開催されADRC所長の西川が防災部門(Disaster Prevention and Preparedness Component)の討議に参加しました。

台風委員会は西太平洋の台風の影響を受ける12カ国(グアムがあるアメリカもメンバー)及び2地域(香港とマカオ)がメンバーであり、例年台風シーズン終了後に総会を開催し、その年の台風についてのレビューと各国の気

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by : **Asian Disaster Reduction Center (ADRC)**
 3rd Floor, 1HD Bld. 1-5-1, WAKIHAMAKAIGAN-DORI, CHUO-KU, KOBE
 651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone:+81-78-230-0346



ADRC Highlights Vol.62

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

January 1 & 16, 2003

象、水文、防災の3部門の関係者が集まり情報交換を行っています。

ADRCは、内閣府の協力のもと防災啓発ビデオ「Protect Yourself from Storms and Floods」を各国での台風災害教育の参考としてもらうようこの会議の席上で配布するとともに、昨年の台風委員会でADRCに依頼があった台風委員会メンバー国・地域の防災インターネットリンク集の素案を提示し、各国・地域からのフィードバックを依頼しました。また、国連ISDR事務局の代理としてISDR活動への理解と協力を求めるメッセージを紹介しました。来年の台風委員会は12月9-15日マレーシアで開催予定です。



➤ Asian Seismological Commission 2002 ネパールで開催

Asian Seismological Commission 2002 がネパールのカトマンズで11月24-26日に開催され、ADRCの矢代主任研究員が Symposium on Seismology, Earthquake Hazard Assessment and Risk Management に出席しました。



この会議は、ネパールの National Society for Earthquake Technology の主催で、地震被害がある国の研究者を対象に今回初めて開催されました。会議には、インド、アゼルバイジャン、アルメニア、ロシア、中国、インドネシア、バングラデッシュ、ネパール、日本などの国から200人程度が参加しました。

各国からの研究者の発表には、Hazard Assessment, Earthquake Process, Risk Management Strategies, Earthquake Source Physics, Strong Ground Motion and Early Warning などがありました。

ADRCは、「Seismic Risk Analysis on Portfolio of Building in JAPAN」の論文に関して発表を行いました。

➤ ASEAN 地域フォーラム人道支援・災害救助セミナーにて基調講演



ASEAN 地域フォーラム(ARF)はASEAN 諸国及びアジア、アメリカ、オセアニアを含むアジア太平洋地域における政治・安全保障分野を対象とする政府間フォーラムとして1994年に開始された対話の場で、例年夏に閣僚会合を開くほか、個別テーマごと

のセミナーを連続的に開催してきています。

12月4-6日、シンガポール国防省がホスト役となり人道支援・災害救助をテーマとするセミナーが開催され、外務省の依頼によりADRC所長の西川が「阪神・淡路大震災の教訓とその後の日本の防災体制の進展」と題して講演を行いました。20カ国及びEUからの会議参加者の多くは各国の外交及び軍関係者であり、地震防災について初めて講演を聞く者も多かったことから、大変な関心と呼びました。また、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」が最近開館したことも紹介したところ、いずれ見学したいという声も多数寄せられました。

この他に、シンガポール市民防衛庁のレスキュー部隊の台湾やインドネシアへの地震派遣の経験やシンガポール国際財団(SIF)からのモンゴル森林火災後の医療チーム派遣の経験などについての具体的なプレゼンテーションがありました。

➤ ADRC への訪問者 □ イラン赤新月社一行



12月16日から21日まで、イラン赤新月社事務総長 Mr. Abbas Sahraei Ardakani 氏を団長とする一行24名が来日しました。今回の訪日は、日本における災害対策、災害時における救援体制のあり方について調査するために、災害

対応の先進地である兵庫と日本赤十字本社がある東京を訪問・視察したものです。

一行は、12月18日の午前アジア防災センター及び隣接する国連人道問題調整事務所を訪問し、センターの機能や活動について説明を受けました。一行はセンターの活動に強い関心を示すとともに、今後、協力関係を構築していきたい旨の発言がありました。

また、一行は、兵庫県災害対策センター、JICA兵庫国際センター、人と防災未来センターなどを訪問し、兵庫県域における災害対応の様々な取り組みについて調査を行いました。

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by : Asian Disaster Reduction Center (ADRC)
3rd Floor, 1HD Bld. 1-5-1, WAKIHAMAKAIGAN-DORI, CHUO-KU, KOBE
651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone: +81-78-230-0346